



学校だより

横浜市立朝比奈小学校

令和2年2月27日

第12号



「〇〇さんをお迎えに来ました」

校長 神田 敏之

感謝週間の取組が行われました。今年お世話になった方々をお迎えして、教室と一緒に給食を食べます。招待をした方々には校長室で待っていただいています。そこに各学級からお迎えの子どもたちが来ます。「失礼します。〇年〇組の〇〇です。〇〇さんをお迎えに来ました。」と入口から声をかけていました。低学年の子どもが覚えてきた言葉を一生懸命に言っている姿を、校長室にいる皆さんもほほえましく感じていました。

招待した方は、学校運営協議会、キッズパトロール、読み聞かせの会、市民図書室、ホタル池守り隊など学校や子どもたちのためにいろいろな役割を果たしてくださっている方です。お迎えを待っているときにいろいろな方とお話をしました。

キッズパトロールの方は、「あいさつを交わし、子どもから元気をもらえる」「帰りに走って転んでしまった子どもが何人かいました」などと言われていました。(下校時の注意は、先日の朝会で行いました)

読み聞かせボランティアの方は、「子どもたちが一生懸命に聞いてくれてうれしい」「次に何の本を読もうかと本を探すのが楽しいです」「久しぶりに1年生の読み聞かせをしたら、素直な反応で楽しかったです」などと話されていました。

感謝の気持ちを伝える機会というものを大切にしたいと考えています。学級の中でも初めは自分がしてもらっていることに感謝の気持ちをもって、感謝の気持ちを表現していても、だんだんにそれが当たり前になり、伝えなくなってしまうことがあります。ご家族の中でも似たようなことがあるかもしれません。

学級の中では、互いのよさを伝え合ったり感謝の気持ちを伝え合ったりすることを、年間の中で節目に行っています。「ありがとう」を言ってもらいたいから相手の喜ぶことをするという段階にある子どももいるかもしれません。この考えから発展できないと「せっかくしてあげたのに、お礼を言われぬ」などと間違った考えに陥ってしまいます。お礼を言われるかどうかは別にして、周りの人に貢献することができる自分を、自分で認められるとよいと思います。

朝会でもあいさつの大切さだけでなく、コミュニケーションがずれないように「ずれているな」と感じたら「自分はこう思っているけれどどうなの」と確認をするように話しました。「言わなくてもわかってくれるだろう」というのではなく、感謝の気持ちをしっかり伝えていく機会をもっていきます。